

・・・雨でも休まず、232回、233回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、3月 2日(第一日曜日):小原本陣の森、担い手育成・技術向上
参加費400円。(* 今月から第一日曜日に変更)

定例活動2、3月16日(第三日曜日):若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円、今月は、“梅ノ木の下でお茶会”もある。

* 初参加者:緑の森体験学校:1000円/人、2回目から400円。

* 3月のお楽しみは、ムササビ庵・梅林でのお茶会:(千 宗久)

- ・初参加:9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・服装:汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元
- ・持参品:成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、自分のお椀と箸
- ・注意:危機管理・救急体制:安全気配り、森林ボランティア保険、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

森が、癒してくれる

通信システムが大いに発達して経済は急速に拡大し、環境破壊が進むと同時に社会のシステムも複雑になっています。必然、想像さえもしなかった事件に無関係でいらなくなります。そして日常生活での緊張(ストレス)が増幅します。 そんな時、森に行きます。

森で、胸一杯、清涼な空気を吸い込んで体をほぐします。先ず、基地の周りを掃除します。身体の温まったところで、鍬・スコップを担いで林道沿いの補修・清掃作業に入ります。10分も作業すると汗ばんで着衣を一枚脱ぎます。その頃、この森を散歩する人が「ご苦労様、」と声を掛けて通りすぎます。最近、この森を散歩する人が増えています。

2時間も作業をすると、汗が噴き出してきます。軽い疲労感も出てきますが、快い疲労感です。基地に戻って薪を集め、お湯を沸かしチロチロ燃える火を見つめているいろんな想いに耽ります。

ここで考える事は、森は、空気・水を準備してくれる“全ての生命の源”だと言う事です。森を粗末にしているから、温暖化問題などと人類存亡の問題を引き起こしているのです。産業革命以来、化石燃料を利用して無計画な経済発展に走った人類はもう、ここらで目覚めて人類・自分は、自然の一部だと自覚しなければなりません。経済(食欲)が環境(自然の摂理)に先行してはいけません。

今年7月、洞爺湖に世界の首脳が集まって温暖化問題を相談します。この相談は、偉い人たちだけの話ではないのです。私たちが生き延びられるか、どうかの話なのです。私たち自身が、真剣に考え行動する事が求められています。先ず“森を大切に作る心”が問題解決の基本なのです。

定例活動報告 小原本陣の森・定例・活動報告：2月2日（土） 報告 川田 浩

- ・参加者：佐々木，川田（記），（石村：コンペ審査の出席の為，前後に顔見せ）
フォレストノバ＝ 滝澤，二藤，佐枝，嶋本，大平，
- ・作業内容： 10時30分～13時：経路工事 14時～15時30分：作業小屋内外片付け

概況

林道の入口から，皆で道具を基地まで運び上げたので作業開始が遅れた。ミーティングで作業予定変更を確認した。13時まで経路作業，基地に戻って昼食，その後，小屋内外の片付けをすることにした。

チェーンソー，スコップ，チルホール，ワイヤー，スリング等経路工事道具を携えて現場へと向かった。10分程で経路入口に到着。前回作った経路を上がりながら，出来具合を確認。作業場所に着くと直ぐに作業開始。目印テープに従って工事を進めた。土留めの為，適当な太さの枝を捜し，先端を三角に尖らせ杭を作り，路肩に打ち込んだ。部材として，倒木を担ぎ出して杭に預けて設置した。路面との隙間には枝を詰め，更に小枝や樹の葉で穴を塞いだ。山を守る為の作業経路が土砂崩れの要因にならぬよう，雨水の流路や排水に特に留意した施工が大切である。経路はジグザグコースなので30mばかり進むと曲がる。

曲がり階段は，上り・下りの歩き易さを念頭に，現場の状況に合った一段当たりの高さ，巾の設定をするとともに，施工のし易さも重要だ。

曲がり角の先のコース付近に倒木がないので，細長い曲がり木を選定し伐倒することにした。佐々木さんの指導に従い，学生達のチルホールの実習である。

倒した後の引出し作業の容易さを考慮し，伐倒方向を決めた。隙間は木一本分で，少しでも曲がれば，掛かり木間違いない状況であった。滑車を使い，ワイヤーの向きを変え，安全な場所でチルホールを操作し，見事ドンピシャで予定した場所に倒した。チルホールの威力に思わず喝采した。倒れた木の枝を払い，チルホールを移動して掛け直して，10m程引っ張り，所定の位置に据え付けた。シロウトの山作業は，時間が掛かっても安全・確実が一番だ。経路作業を終了し，道具を片付け，再確認して基地に戻った。

いよいよ昼食の準備である。カマドに火をいれ，石村夫人の差し入れの梱包を開けて，ジャガイモのホイル焼きと手作りのオニオンスープが，レシピ通りに出来上がった。感謝しながら皆でたらふく平らげた。ご馳走様でした。

一休みしてから，小屋の片付けに取り掛かった。中にあったものを一旦全て出して，要る物だけを再度格納した。小屋の中で冬眠中の大きなクモを多数見つけたが，小屋からは出てもらった（オニグモと思われる）。

大量に出たゴミを軽トラに載せて作業は終了。お疲れ様でした。



「雪の森であったかく！」

この冬は暖冬で、しかも雪が多い感じだが町では雪は、すぐ消える・・・しかし、ありました！長野や富山まで行かずとも、相模湖の嵐山にもたっぷり雪が残っていた、二月の活動日。



参加者は「生命の森宣言」17名、望星高校7名、学生連合 Forest Nova 15名、森人クラブ3名、日大森友3名、体験学校他一般27名、計72名。団体の参加で森も活気づく！！

森林整備班は、森のアチコチの道を整備作業。大鎌をもって、雪の小道を伐採しながら、広げていく。日向はかなり暖かく、懐かしのラクダ色のTシャツ一枚で、大鎌をふって、汗をかいている人も。熟年者が多く、一人ひとり、間隔あいて作業する姿が清々しい。



体験学校では団体の人達が、午前中、森を回って森づくり活動の話聞く。

午後は、三グループに分かれて、木の間伐の体験作業。ファール佐々木班、斎藤班、川田班。木の圧力があるせいか、始めはなかなかノコギリが真っ直ぐに切れず苦労したようですが、最後は「二本伐りました！」と、今日は作業スタイルバッチリの千葉さん。



工房班は椅子作り、「リュック」ツリー作り、新しい小屋の木材作り。皮をはぐと美しいヒノキの素肌。どんな小屋ができるのか楽しみ！

花畑班は腐葉土運びとフェンス作り。この日は助っ人多く、大分はかどった！フェンスのくい打ちに奮闘したNovaの加藤、照井君は、「森林作業より大変だった！」でもいい経験したようです。

お楽しみの昼ごはんは、森のビーフシチューと蒸した温野菜。森のかまどに、せいろ（蒸し器）の塔が建っているのは、なかなか乙な光景。生命の森宣言のメンバー二人、「このおいしさは三ツ星、いや五ツ星レストラン（食べに行ったことないけど!?)」、「この為にも又、森づくりに来るべし」と木の根っ子のイスの上で話がもり上がってたよ。

おみやげは石村パパのダイナミック焼き芋！ぬらした新聞紙とアルミでいもをくるみ、たき火の灰の中にドーンとぶっこむ！

心も体もあったまった二月森活動日でした。

学生連合Forest Nova ☆の現状

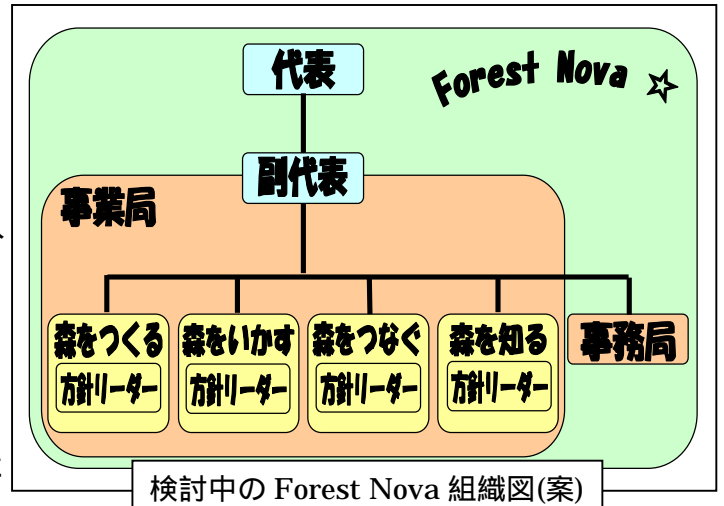
報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

僕ら学生連合 Forest Nova は、活動内容の充実化と、組織としての土台作りをしています。

活動内容の充実化では、現状の Forest Nova に決定的に不足している森に関する知識を本から補おうと、森に関する本をリストアップし、購入を検討しています。また、24日には森の現状についての勉強会も行いました。

組織の土台作りでは、4月に多く加入してくるであろう新入生を受け入れる前に、Forest Nova の活動に必要な様々なタスクを洗い出し、役職と役割の明確化を達成しようとしています。

現状、主要メンバーである大学三年次の学生が就職活動で動きが鈍っている Forest Nova ですが、新年度の幕開けにあわせてスタートダッシュが切れるよう、着々と準備を進めています。



嵐山B地区での施業について

報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

相模湖嵐山において、緑のダム北相模よりその活動地域の一部管理を任せさせていただきました。Forest Nova が今後、単独でも森林整備の設計・管理など一通りの施業ができるようになるための実地訓練のような位置づけです。

Forest Nova は、「森と人の共助共生があたりまえになる社会を目指す」を理念に掲げ、活動しています。B地区での施業を通して施業についての技術・知識の向上をはかり、「森と人の共助共生があたりまえになる社会」がいかなるものかその片鱗を探りたいと思っています。また、フィールドを貸してくださった緑のダム北相模と地主の方に感謝し、そういった方々と自分達と森が満足できるような森林整備をするにはどうしたらよいか、それも勉強していきます。

緑のダム北相模と地主の方には面倒をお掛けしますが、真剣に取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。



B地区の番地付けをする初参加の学生

チェーンソー勉強会 報告：2月3日

報告者 佐枝 直哉 (Forest Nova 麻布大学2年生)

当日は雪の降る中、緑のダムの佐々木さんを講師に迎え、チェーンソー講習会を行いました。目的はチェーンソーや刈り払い機の技術的なことだけではなく、ボランティアで使用する意義を伝えるため、これから先チェーンソー講習会を行ううえでの試験的なものとして勉強会を行うとした意味合いも含まれていました。この勉強会には Forest Nova 5人の学生だけでなく他大学の方も3人、そして緑のダムからも石村さんと川田さんも来ていただきました。



今回の勉強会では佐々木さんを講師に招き、技術者のチェーンソーの扱い方の話だけではなく、ボランティア団体としての扱い方を教えていただきました。ボランティアは時間をかけてでも効率ではなく安全を最優先にすることや、木の伐倒では安全性をより高めるためにチルホールを使用することなど、普通に作業しているだけでは教わりにくいことも、この勉強会で教えていただきました。



この勉強会のおかげで、私達学生はボランティアとして山に入るときに、どのようなことに気を配ればよいのかを教えてもらいました。

この勉強会は、私達森に入る学生にとって、とても貴重な時間になったと思います。

“森づくり、モノづくり”コンテスト：1月30日、2月2日

間伐材を活かす仕組みづくりとして、「森づくり、モノづくり」コンテストを実施した。全国から161点もの応募があった(間伐材活用部門：110点、ランドスケープ部門：51点)

審査員 内藤廣(建築家・東大) 白砂伸夫(設計士・京都造形大) 小田原健(デザイナー・ベル研究所)
戸塚英明(環境経済局長・相模原市) 荻野時夫(相模湖商工会長) 石村黄仁(NPO 緑のダム)

(敬称略)

・ 間伐材活用部門：最優秀賞 該当者なし・・・

・ ランドスケープ部門：最優秀賞 作品名：「浮島」和歌山県・岸田 祥様

全国から161点もの応募作品があって、森林に関する関心の深さが感じられた。また、想像の出来ないオリジナリティを發揮した作品もあり、商品化できるものは試作することとしている。今年が初めてだが、何年か継続して作品集の出版も計画している、また、広く公開する事で多くの人々が森林に関心を示してもらおう事も必要だと、先ず本年のやまなみ祭り(4月29日、相模湖町)での公開展示をきめた。

初参加感想

真館広美(資生堂美容室株式会社)

今まで森とか きれいだなー くらいで思って終わってたけど 木々一本一本それぞれ太さもちがって、意味もある。初めてヒノキとスギの木の違いを知って それもすごくタメになった。

高校生が植樹したちっちゃい木を見たとき、いろいろ考えさせられたよ。

3年前に卒業した人たちが植えて それを守るには後輩達の力が必要で 守るにあたって決してとぎれてはいけない後継者の絆…。とか。

ちっちゃくて細いのに雷雨にも 豪雪にも負けないで くじけずまっすぐ生きてる。とか。

くよくよしてられんって勇気づけられたよ。



山の頂上までいったときもすごく感動した。上からでしか見えないきれいな景色。相模湖。山々。

社会に出てからここまで自然に触れ合うことがなかったから 改めて自然との共存を考えるいいきっかけになった。

今の森における現状を目の当たりにして 周りの人にも知ってもらいたいって思った。

さっそく昨日今日とたくさんのお客さんにおはなしして 一緒になって考えてくれた。

私はそういう意味でも貴重な体験をさせてもらったなっておもいました。

いい未来をみたかったら今が大事ってことを身をもって実感したよ。

私の何気ない日常をいい意味で変えてくれたって思う。一昨日の体験を通して身近なところから環境改善取り組もうってスタッフにも呼び掛けているんだ、ほんと感謝してるよ。

土日休みが全然ないけど今回参加できて本当によかったです

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと.....
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定非営利活動法人緑のダム北相模: 若柳嵐山の森、小原本陣の森

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO 法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協 働 団 体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター)、セブーンイレブンみどりの基金、(財)オイスカ

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、神奈川建具協同組合、東急コミュニティ。